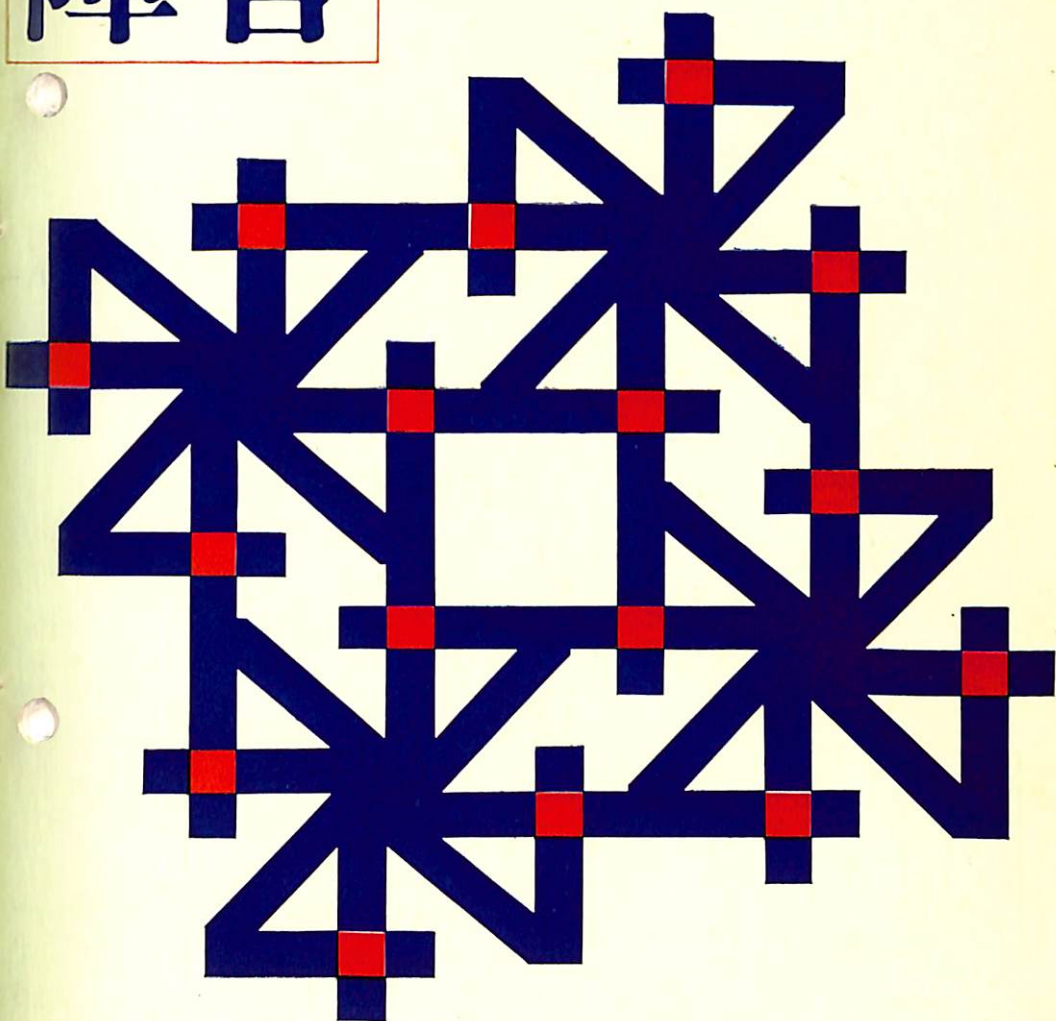


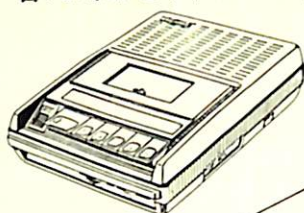
視覚 障害



その研究と情報

1977年 春 No. 33

盲人用カセットレコーダー



ナショナル製

半減速と標準スピード
C-60で2時間可能

日本点字図書館
用具部

〒160 東京都新宿区高田馬場

1-23-4

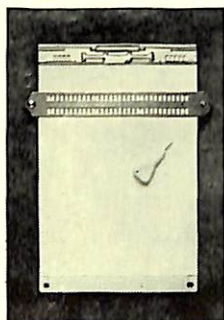
TEL (03) 209-0241

新時代にふさわしい

盲人用具

プラスチック製標準型点字版

厚生省補装具認定品



日本盲具開発協会

TEL (03) 656-6030

□□□□

点字器機全般
専門製作販売

厚生省公認
盲人用補装具指定

仲村点字器製作所

東京都中野区鷺宮1-14-3

電話 東京03 (338) 1384番

振替口座 東京 75728 番

盲学校の子どもたち

東京教育大学付属盲学校小学部



写真1 元気になるわとび

業間の休みに小学部児童全員でなわとび、サーキットトレーニング、マラソンなどを
行い体力づくりにはげんでいます。



写真2 遊具で遊ぶ子どもたち

休み時間はグローブジャングル、
遊動橋、チェンネット、鉄棒、はんと
棒などの遊具で遊びます。子ども
たちの元気な声が運動場いっは
いに広がります。



写真3 盲人野球は楽し

子どもたちは野球が大好き。
休み時間には、何人かの仲間を集めて
盲人野球を楽しんでいます。

〈学習のようす〉



写真4 レーザライターで図形学習

レーザライターはたいへん活用範囲の広い教具です。図形学習だけでなく、かな文字や漢字、歩行地図などの学習にもどんどん取り入れられています。



写真5 カナタイプの学習

3～4年生になるとカナタイプの学習が取り入れられ、手紙や葉書などが自由に書けるように指導されます。子どもたちはたいへん意欲的に学習に取り組んでいます。



写真6 楽しそうに創作にはげむ子

盲学校の図工は立体的な創作が中心です。ビルブロック、粘土、紙細工などがよく行われます。



写真7 本を読む弱視児

低視力児ができるだけ能率よくよい姿勢で読書できるように、ブックスタンド、電気スタンド、弱視レンズ等学習環境の整備が行われています。



写真8 バランスもよくローラースケート
毎年1月～2月にかけて、体育の時間にどの学年もローラースケートを行います。子どもたちの上達は目ざましく回転やバックなども得意です。学習のしめくりは、ローラースケート場で一日思い切り滑走を楽しみます。



写真9 軽やかにペダルをふんで
子どもたちは全員自転車が好きです。体育の時間、広い運動場で思い切りペダルをふみます。

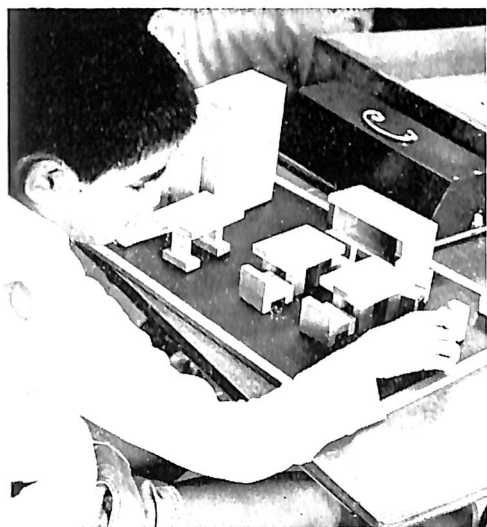


写真10 教室の備品ならべ



写真11 マンツーマンでひとり歩きの学習

ひとり歩きができるようになるまでにはたくさんの学習が必要です。身近な空間からだんだんと理解の範囲を広げ、白杖を使ったひとり歩きができるように、系統的な学習が進められます。

〈移動教室〉

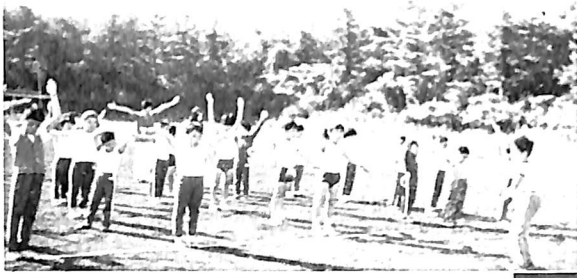


写真12 きれいな空気を胸いっぱい
「自分のことは自分でやろう」
「自然に親しもう」「体をきたえよう」という三つの目標をかかげて、毎年3泊4日の夏季教室が、3～6年を対象に行われます。

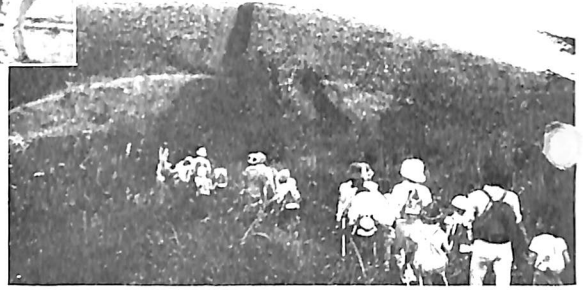


写真13 頂上めざして



写真14 おさかながいるかな
幼稚園と小学部の1、2年生は1泊2日で、川や山で夏季教室を行います。どの子も親の手から完全に離れて、とても元気に生活します。



写真15 さあ思い切りすべろぞ



写真16 そりあそび

毎年5、6年生を対象に2泊3日で冬季施設を開き、スキー、ソリ、雪合戦など雪国の遊びを楽しみます。

目 次

1977年 春 No.33

2 ページ評論	高尾 正徳	2
窓口としての役割をめざして	藤野 克己	4
全盲の子どもを担当して	篠崎 恵昭	13
普通幼稚園に就園する盲幼児の指導(5)	香川 すみ子	26
あの人この人 都会人で感覚の鋭い 川野楠巳さん		33
自立のために(3)	アン・イードン	36
インフォメーション・コーナー		45
施設をたずねて 点字ジャーナリズムの確立(点字毎日)		49
内外文献		53
編集後記		58

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

の点字情報処理の発展を願って、1972年春ごろから努力されてきた筆者は、長谷川健介東工大教授を中心とする「点字カセットシステム開発研究会」の研究成果とあいまって、点字で書いた文字を普通文字にかえる、いわゆる「自動代筆」を

可能とする段階に達し、さらに本を開いてそこに書かれている内容がそのまま点字になる「自動点訳」を目標としている。この報告はこれまでの努力と現在の成果を要約しており、よく事情が理解できる。研究の達成を鶴首したい。（藤井聡尚）

編 集 後 記

最近視覚障害者の福祉と教育に、二つの新たな“問いかけ”がはじまっています。

その一つは、今まで身体障害者の援護は、施設収容に重点がおかれていました。しかし、最近コミュニティーケアが叫ばれ、地域における在宅障害者の援護のあり方が問いただされてまいりました。この意味において、地域の障害者のサービスを主体とした新たな施設の役割りを果たしている、神奈川のライトセンターにスポットをあててみました。

また、盲教育の面におきましても、長い伝統をもつ盲学校教育に対して、全国各地に視覚障害児のインテグレーションの問題がおり、新たな“問いかけ”がはじまっております。この意味で、その実際の一つをとりあげてみました。

読者皆様のご意見をお寄せ

いただければ幸いです。

なおまた、本会におきましてはこのたび“視覚障害児の概念発達”（定価送料を含む600円）を発刊いたしました。視覚障害児指導のためのハンドブックの一つに加えていただければと思っております。

（松井 新二郎）

視 覚 障 害 1977年 春 No.33

年間購読料 1,500円（送料とも）

発行日 1977年 4 月 1 日

発行者 本 間 一 夫

編集者 松井 新二郎

発行所 日本盲人福祉研究会

〒532 大阪市淀川区塚本 3 丁目12番
6—301

電話 (06) 309—2100

振替口座 大 阪 4 0 2 7 0

印刷所 合同印刷株式会社

〒130 東京都墨田区業平2-9-13
電話 (622) 1925番（代表）

協賛団体 日本点字図書館